

2021
JUNE 2-3

ONLINE WORKSHOP

PDEs and Probability Theory -beyond boundaries-

数学分野における ダイバーシティとインクルージョン

Diversity and Inclusion in Mathematics

PDEs and Probability Theory -beyond boundaries- 2021. 6.2.

佐々田槇子（東京大学数理科学研究科）

今日のSocial Eventの目的

- ・ オンライン研究集会において, 数学の講演以外にも参加者同士の交流の機会を作ること
 - ・ ダイバーシティとインクルージョンは, 社会的にも国際的にも重要になっており, 個々の研究者も様々な課題やアイディアを持っていると思われる. この話題について, 気軽に情報共有や意見交換できる環境を作ること
-

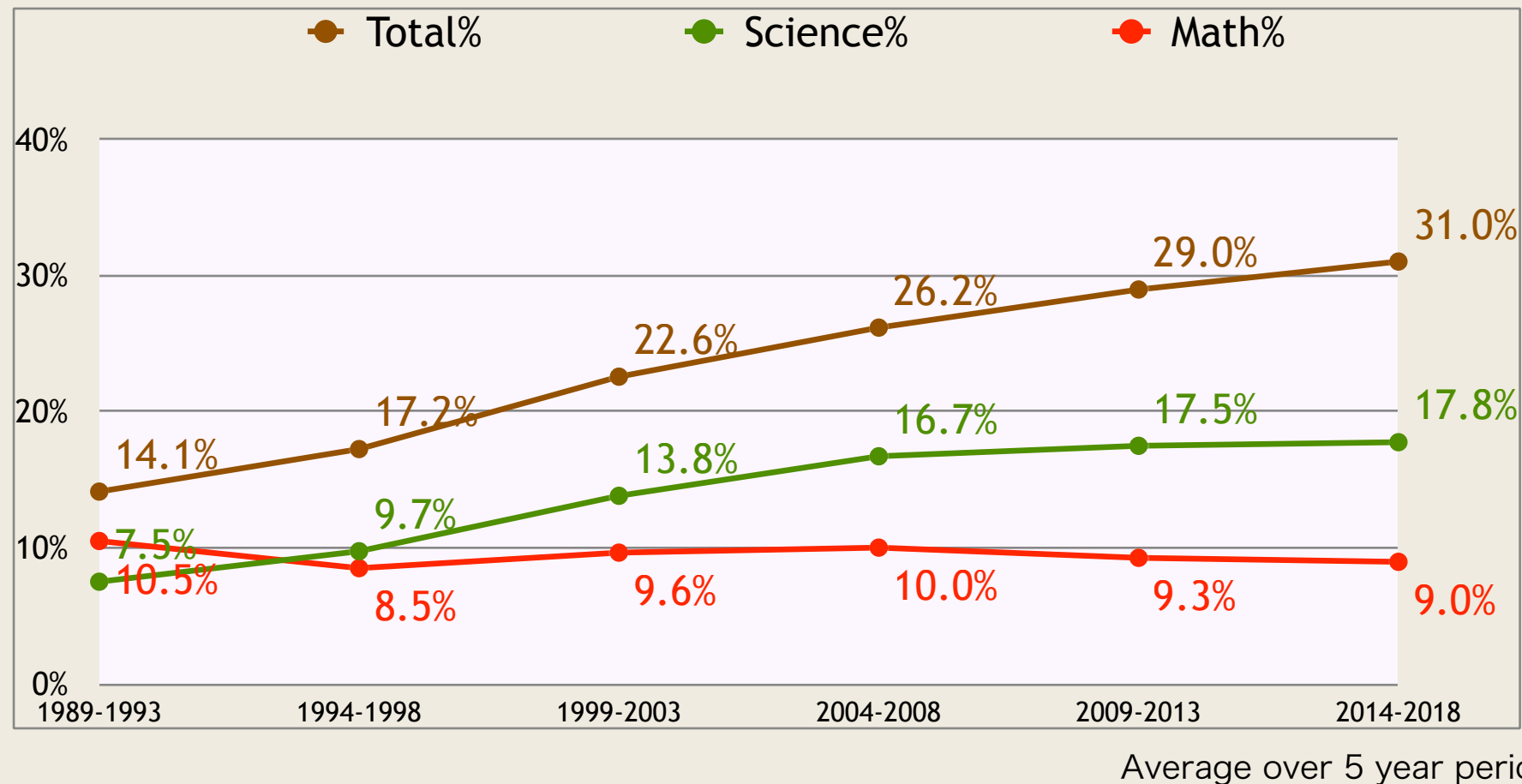
Diversity と Inclusion

- Our aim is that staff and students from all backgrounds **feel confident in their ability, feel empowered to be themselves** and can achieve their best here in the Centre for Mathematical Sciences (CMS). We recognize that **diversity promotes innovation and creativity, and provides exposure to a wider range of ideas, skills and experiences which we can all benefit from**, as well as helping us to attract and retain the best talent from around the world. Together we can create **an inclusive environment** of tolerance and **mutual respect** where everyone feels valued, listened to and protected from discrimination. (Cambridge Math Faculty HPより)
 - We are dedicated to providing **a supportive, inclusive, and safe environment** for all participants and ensuring that **all participants will be treated with dignity and respect**. (CRM-PIMS Summer School in Probability 2021HPより)
 - 数理科学研究科と理学部数学科にとって、すべての人が、学生、研究員、教員、職員という立場の違い、学年や年齢、職位や業務の違い、健康状態や障がいの有無、性別と性自認、性的指向の違い、国籍や出身、家庭環境や経済状況の違い、学業成績や研究業績あるいは専門分野などの属性にかかわらず、**個人として尊重される**ことは基本的価値です。この価値は、私たちの目標とする**自由な教育、学習、研究活動とそのために不可欠である良好な職場環境の前提**となるものです。そしてこの価値の実現は、ここに集う人の**多様性につながります**。（東大数理 HP「ハラスメントのない数理、数学科を」より）
-

統計データ

博士課程修了者における女性割合（日本・分野比較）

Percentage of female Ph.D. degree recipients (Japan)



http://www.math.keio.ac.jp/~bannai/Report_MathGender.pdf より

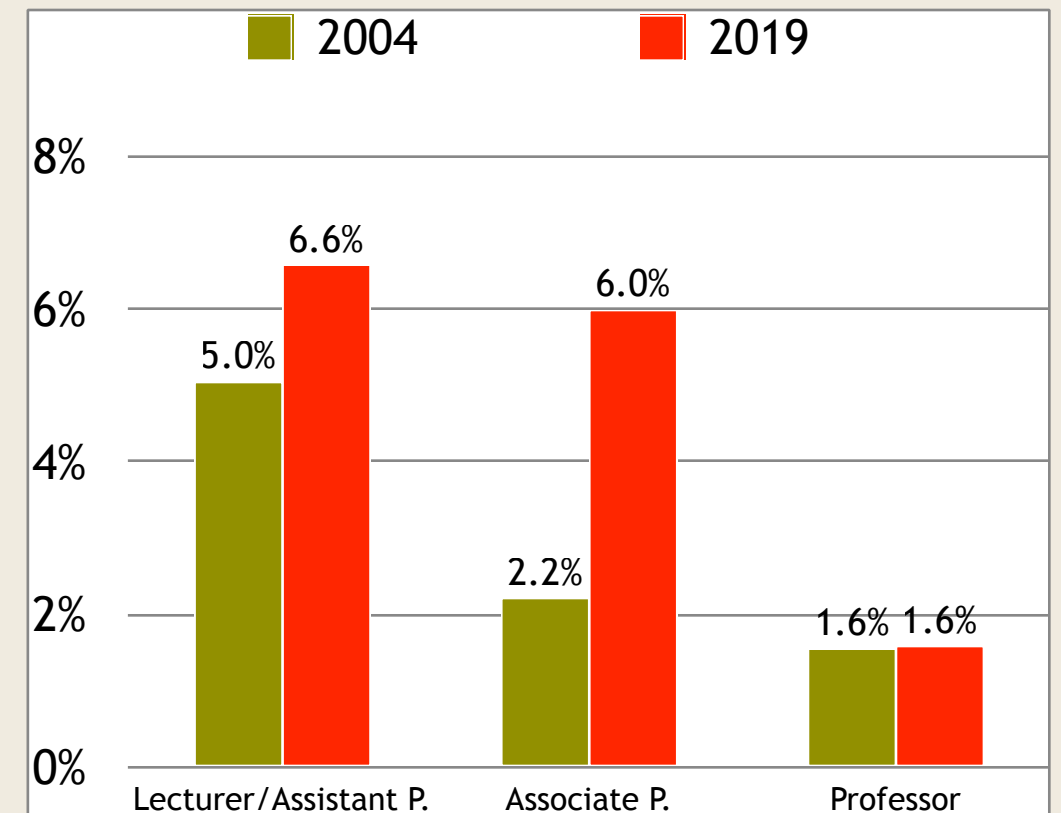
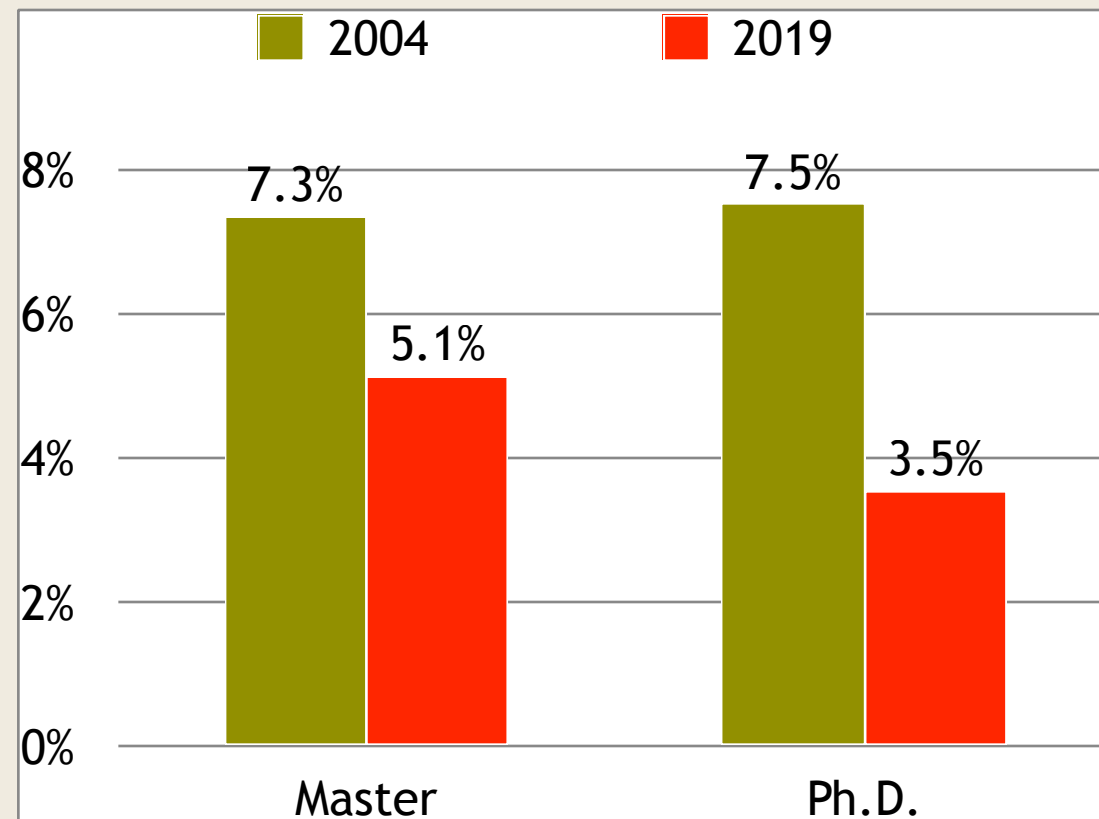
なぜ数学では増えないのか？

志望者が少ない？性別役割分業の意識？無意識のバイアス？ハラスメント？

統計データ

大学院生および教員の女性比率（国立10大学・数学系）

Percentage of female students and faculty in Math Dept.
(10 national universities)



http://www.math.keio.ac.jp/~bannai/Report_MathGender.pdf より

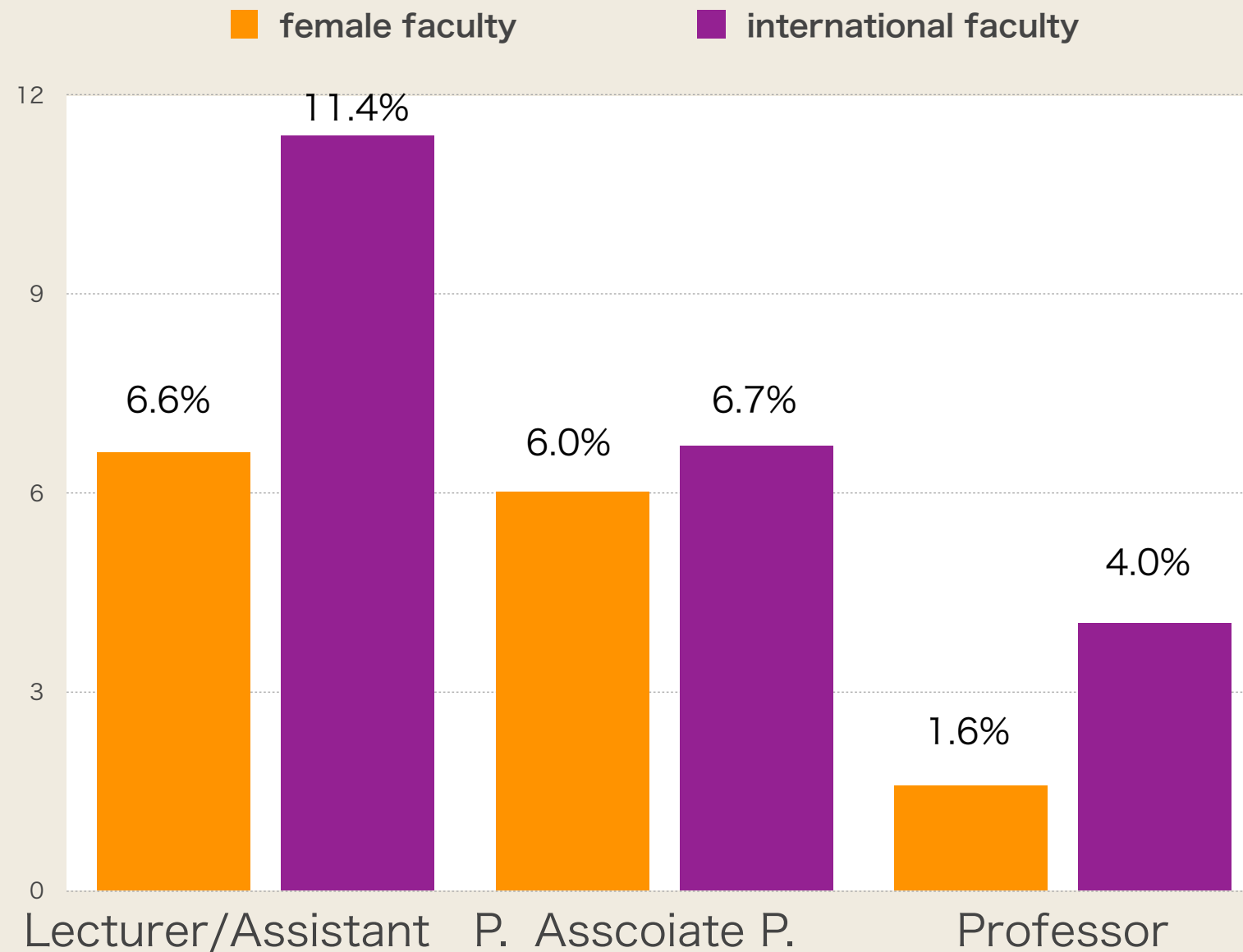
1990年代以降一貫して9%前後の博士課程修了者（全大学）がいたが、

国立10大学における教授の割合は1.6%で、この15年間変わっていない。

関連部局を含めても、2.9%にとどまる。

統計データ

女性教員と外国人教員の比率（国立10大学・数学系）
Percentage of female and international faculty in Math Dept.
(10 national universities)



http://www.math.keio.ac.jp/~bannai/Report_MathGender.pdf

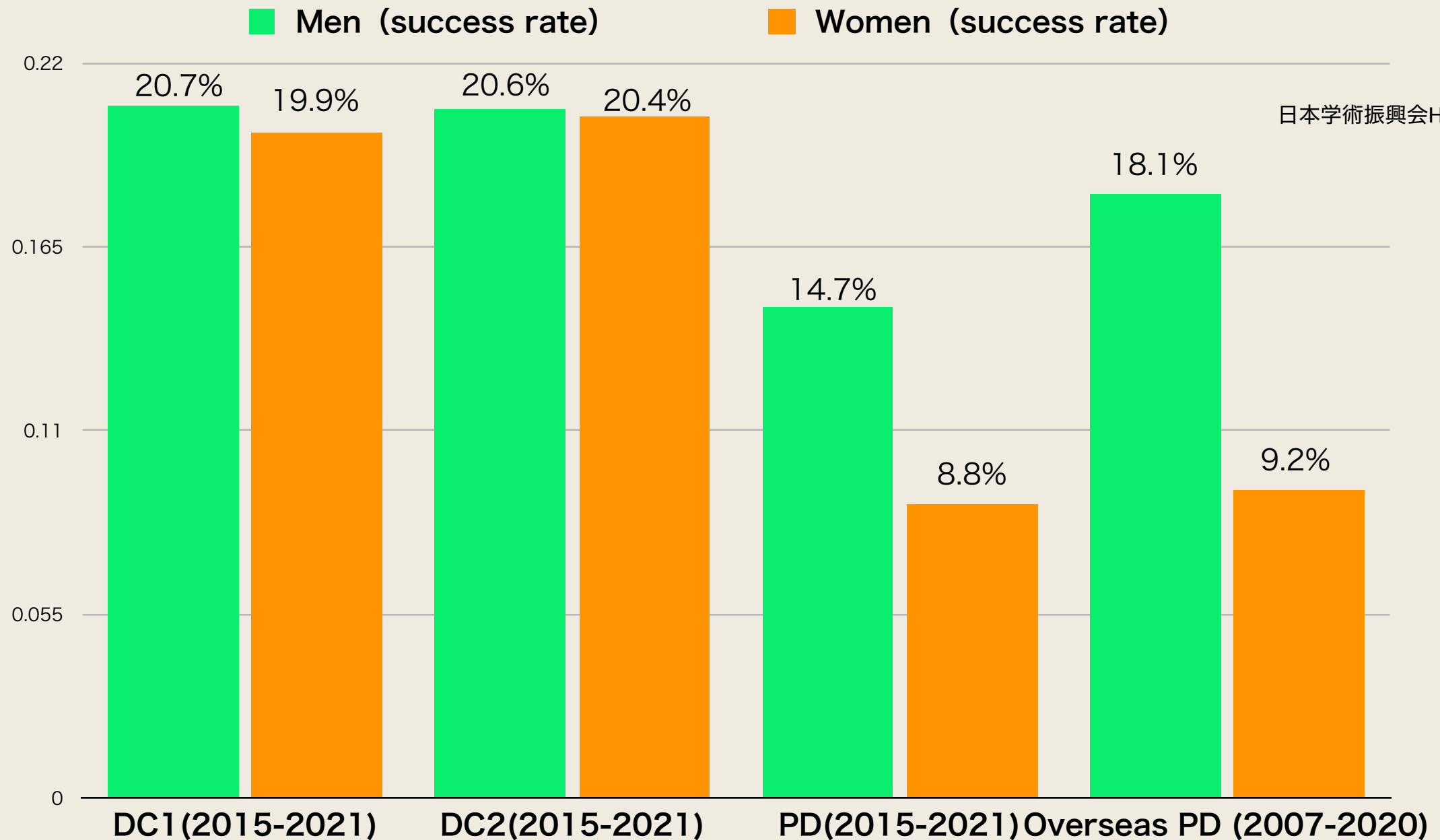
および各大学HPより

職位があがるほど、（わかりやすい）多様性が低くなっている

統計データ

学振特別研究員・数物系の採用率の男女別データ

JSPS Research fellowships (math&physics) success rate



ポストク応募の時点までに, なんらかの差が生じている?

Diversity and Inclusionの目的と方法

- 誰もが属性や信条等によらずに, 安心して平等に研究活動ができ, 自身の持つ力を最大限発揮できる環境を作ること
 - 現時点でのマジョリティ（属性, 生活スタイル, 研究スタイルなど）を基準に作られた制度や習慣, 「当たり前」を見直し, 種々のバイアスについての科学的な知見を学び, ハラスメントなどのインクルーシブな研究環境を損なう問題をより意識的に防止していく, といった「コミュニティのあり方の見直し」が, 全ての人にとってより良い環境を作るために欠かせない
 - 現在の日本の数学界には, マイノリティの活躍を妨げるような, 居心地の悪さ, ステレオタイプ, バイアス, 制度上の不利益や不都合などがあると考えられる. なんらかの属性を「優遇するか」ではなく, どのように「よりインクルーシブな環境を実現するか」, ということが論点. そのためには, 多様な視点とマジョリティの積極的行動が欠かせない
-

お願い

- ・ 分野, 世代, 性別, 国籍などをこえた新しい交流をどんどん広げてください
(beyond boundaries !)
 - ・ 結論をまとめようとするのではなく, いろいろな考え方や経験, アイディアなどをたくさん共有してください
 - ・ 一人一人異なる意見・価値観・感じ方があることが当たり前です. 他の人の意見を否定せず, 尊重してください
 - ・ 議論に出た情報や内容, また感想について, 事後アンケートをしますので, ぜひご協力をお願いします. 事後アンケートで公開可としていただいた部分は, 研究集会のHPで公開します. 多様な視点からの声がとても大切です
-